

GALLERY KOYANAGI

PRESS RELEASE

ギャラリー小柳 展覧会のご案内

HIROSHI SUGIMOTO | OPERA HOUSE

2022.9.3 (Sat) – 11.6 (Sun)



KOYANAGI BUILDING 9th FLOOR, 1-7-5 GINZA CHUO-KU TOKYO JAPAN 104-0061

報道関係者各位

平素よりお世話になっております。

この度、ギャラリー小柳では杉本博司の個展『OPERA HOUSE』を、9月3日（土）から11月6日（日）の会期で開催いたします。本展では、国内で初めての展示となる杉本の「オペラ劇場」シリーズを、一堂に展示いたします。

「オペラ劇場」は、ヨーロッパにある数百年を経たオペラ劇場を、杉本が1970年代より制作を続けている「劇場」シリーズと同じ手法で撮影した作品群となります。すなわち「オペラ劇場」のシリーズは「劇場」の流れを汲むもので、後に制作される「廃墟劇場」と併せて、劇場の歴史的な変遷を私たちに見せてくれます。

「劇場」で撮影された映画館——20世紀前半にヨーロッパの劇場を模して建てられたアメリカの映画館は、巨大化し、様々な地域・時代の豪華な意匠を織り交ぜて異国情緒を漂わせた装飾で彩られていました。そしてその装飾の引用元となったヨーロッパの劇場（杉本がいうところの『本歌取り』の『本歌』）を杉本が訪ねるところから、「オペラ劇場」の制作は始まります。

私は模倣のもととなったヨーロッパの劇場を訪ねることにした。1580年パラディオ設計になるテアトロオリムピコから始まり、18世紀にかけて北イタリアを中心として華麗なる劇場が多数建てられた。神話が捏造されたフィクションであるならば、映画もまたリアリティーを捏造されたフィクションである。私はスクリーンを持たない古典劇場にスクリーンを架け、イタリア映画の古典名作を映し、映画1本分を露光した。スクリーンは白光化し、何者かの顕現のようにも見える。

杉本博司

「オペラ劇場」は舞台上にスクリーンを設置し、名作と言われる古典映画を上映した状態で撮影されます。カメラの露光時間を各映画の上映時間に設定し、スクリーンへ照射される数十万枚もの映画フィルムのコマを1枚の写真フィルムに取めることによってスクリーンは白く光る矩形となり、その光によってオペラ劇場内部の装飾が浮かび上がります。

「オペラ劇場」は「劇場」と同様に映画1本分の時間を1枚の写真に取めたシリーズですが、「劇場」では映画館を横構図で撮影したのに対し、その建築的な構造から「オペラ劇場」は縦構図で撮影され、スクリーンのある舞台側だけでなく、スクリーンからの光によって照らされた客席側も作品化されています。

イタリアの古典的なオペラ劇場を巡った杉本の旅は、フランスへと続いていきます。2018年、ヴェルサイユ宮殿の小トリアノンで行われた個展「SUGIMOTO VERSAILLES」では、演劇を愛したマリー・アントワネットが自身のためにつくった壮麗な小劇場を杉本が撮影し、新作として発表しました。また2019年には、杉本がパリ・オペラ座のために手がけた「At the Hawk's Well／鷹の井戸」が上演されたガルニエ宮オペラ座を、舞台上につくり出された能舞台も含めて撮影しています。今回のギャラリー小柳の個展では、フランスで撮影されたこれら二つの「オペラ劇場」もあわせてご覧いただけます。

「オペラ劇場」で投映された映画は杉本が劇場に合わせて自ら選び、撮影後にストーリーを要約し、テキスト化しました。本展覧会では是非テキストを読みながら、白く光るフィクションと、フィクションからの光に照らされたリアルのオペラ劇場の姿をご堪能ください。

杉本博司は1948年東京生まれ。1970年渡米、1974年よりニューヨーク在住。活動分野は、写真、彫刻、インスタレーション、演劇、建築、造園、執筆、料理と多岐に渡り、世界のアートシーンにおいて地位を確立してきました。杉本のアートは歴史と存在の一過性をテーマとし、そこには経験主義と形而上学の知見をもって、西洋と東洋との狭間に観念の橋渡しをしようとする意図があり、時間の性質、人間の知覚、意識の起源を探求しています。世界的に高く評価されてきた作品は、メトロポリタン美術館（ニューヨーク）やポンピドゥ・センター（パリ）など世界有数の美術館に収蔵されています。代表作に「海景」、「劇場」、「建築」シリーズなど。2008年に建築設計事務所「新素材研究所」を設立、IZU PHOTO MUSEUM (2009)、MOA美術館改装（2017）などを手掛けています。2009年には公益財団法人小田原文化財団を設立し、2017年10月には構想から20年の歳月をかけ建設された文化施設「小田原文化財団 江之浦測候所」をオープンしました。

また、9月17日（土）より兵庫県の姫路市立美術館で「杉本博司 本歌取り——日本文化の伝承と飛翔」、同じく姫路市北西部にある名利、書寫山圓教寺では「圓教寺×杉本博司 能クライマックス——翁神男女狂鬼」が開催されます。
あわせてご高覧頂ければ幸いです。

資料および図版のご依頼はギャラリーまでご連絡ください。ご掲載の際にはご一報いただけますよう宜しくお願い申し上げます。

ギャラリー小柳

【広報用図版】



キャプション：

Hiroshi Sugimoto

Villa Mazzacorrati, Bologna

2015

"Le Notti Bianche"

gelatin silver print

クレジットライン：

© Hiroshi Sugimoto / Courtesy of Gallery Koyanagi



キャプション：

Hiroshi Sugimoto

Teatro dei Roszi, Siena

2014

"Summertime"

gelatin silver print

クレジットライン：

© Hiroshi Sugimoto / Courtesy of Gallery Koyanagi

【展覧会概要】

展覧会名：HIROSHI SUGIMOTO | OPERA HOUSE

会期：2022年9月3日（土）～11月6日（日）

開廊時間：12:00～19:00

休廊日：日・月・祝祭日

* オープニングレセプションの開催はございません。

* 「ART WEEK TOKYO」開催中は下記の通り開廊いたします。

11月3日（水・祝）～6日（日）*会期中無休

10:00～18:00

会場：ギャラリー小柳 東京都中央区銀座 1-7-5 小柳ビル 9F

Tel: 03-3561-1896 Fax: 03-3563-3236

交通：東京メトロ有楽町線 銀座一丁目駅 7番出口より徒歩1分

丸ノ内線・銀座線・日比谷線 銀座駅 A-9出口より徒歩5分

URL：<http://www.gallerykoyanagi.com>

お問い合わせ：ギャラリー小柳 電話 03-3561-1896 | メールアドレス mail@gallerykoyanagi.com

*新型コロナウイルス感染症の影響により、今後の状況によっては、開催時期・内容等を変更する場合がございます。その際は、ギャラリー小柳のウェブサイトにてご案内いたします。

杉本博司

- 1948 東京生まれ
 1970 立教大学経済学部卒業
 1974 アートセンター・カレッジ・オブ・デザイン卒業
 1974- ニューヨーク在住

受賞歴

- 2018 ナショナル・アーツ・クラブ 名誉勲章[写真]部門、ニューヨーク
 2017 文化功労者 選出、東京
 王立写真協会賞、ロンドン
 2014 第1回イサム・ノグチ賞、ニューヨーク
 2013 フランス芸術文化勲章オフィシエ章、パリ
 2010 秋の紫綬褒章、東京
 2009 高松宮殿下記念世界文化賞〔絵画〕部門、東京
 2006 フォトエスパーニャ賞、マドリッド、スペイン
 2001 国際写真賞、ハッセルブラッド基金、ヨーテボリ、スウェーデン
 2000 名誉博士号、パーソンズ・スクール・オブ・デザイン、ニュースクール大学、ニューヨーク
 1999 グレン・ディンプレックス賞、アイルランド近代美術館、ダブリン
 第15回アニュアル・インフィニティ賞、国際写真センター、ニューヨーク
 1988 毎日芸術賞、東京
 1982 国立芸術基金 (NEF) 助成金、ワシントン D.C.
 1980 ジョン・サイモン・グッゲンハイム記念財団奨学金、ニューヨーク
 1977 C.A.P.S. 奨学金、ニューヨーク

主な個展

- 2022 「杉本博司 本歌取りー日本文化の伝承と飛翔」 姫路市立美術館 (兵庫)
 「春日神霊の旅ー杉本博司 常陸から大和へ」 神奈川県立金沢文庫 (神奈川)
 2021 「OPTICKS」 ギャラリー小柳 (東京)
 2020 「飄々表具ー杉本博司の表具表現世界ー」 細見美術館 (京都)
 「杉本博司 瑠璃の浄土」 東山キューブ、京都市京セラ美術館 (京都)
 「Past Presence」 ギャラリー小柳 (東京)
 2018 「クアトロ・ラガッツィ 桃山の夢とまぼろしー杉本博司と天正少年使節が見たヨーロッパ」
 長崎県美術館 (長崎)
 「SUGIMOTO VERSAILLES Surface of Revolution」 トリアノン、ヴェルサイユ宮殿
 (フランス)
 「信長とクアトロ・ラガッツィ 桃山の夢と幻 + 杉本博司と天正少年使節が見たヨーロッパ」 MOA 美術館 (静岡)
 「杉本博司 : Still Life」 ベルギー王立美術館 (ブリュッセル、ベルギー)

- 2017 「杉本博司：天国の扉」 ジャパン・ソサエティ（ニューヨーク）
「LE NOTTI BIANCHE」 サンドレット・レ・レバウデンゴ財団現代美術館（トリノ、イタリア）
- 2016 「杉本博司 ロスト・ヒューマン」 東京都写真美術館（東京）
- 2015 「趣味と芸術一味占郷」 千葉市美術館（千葉）／細見美術館（京都/*2016）
「今昔三部作」 千葉市美術館（千葉）／モスクワ・マルチメディア美術館（ロシア/*2016）
／Musée des Beaux-Arts, Le Locle（ヌーシャテル、スイス/*2016）
- 2014 「ON THE BEACH」 ギャラリー小柳（東京）
「ロスト・ヒューマン・ジェネティック・アーカイブ」 パレ・ド・トーキョー（パリ、フランス）
「杉本博司：Past Tense」 The J. Paul Getty Museum（ロサンゼルス、アメリカ）
- 2013 「杉本博司」 サムスン美術館リウム（ソウル、韓国）
- 2012 「Five Elements」 ギャラリー小柳（東京）
「杉本博司 ハダカから被服へ」 原美術館（東京）
- 2011 「杉本博司 アートの起源 | 建築」 丸亀市猪熊弦一郎現代美術館（香川）
- 2009 「杉本博司—光の自然」 IZU PHOTO MUSEUM（静岡）
「放電場」 ギャラリー小柳（東京）
- 2008 「歴史の歴史」 金沢 21 世紀美術館（石川）／国立国際美術館（大阪/*2009）
- 2007 「漏光」 ギャラリー小柳（東京）
「杉本博司」 K20 ノルトライン＝ヴェストファーレン州立美術館（デュッセルドルフ、ドイツ）
／ノイエ・ナショナルギャラリー（ベルリン、ドイツ/*2008）
- 2006 「本歌取り」 ギャラリー小柳（東京）
「観念の形 数理模型」 アトリエ・ブランクーシ、ポンピドゥー・センター（パリ、フランス）
- 2005 「歴史の歴史」 ジャパン・ソサエティ・ギャラリー（ニューヨーク、アメリカ）
「杉本博司：時間の終わり」 森美術館（東京）／ハーシュホーン博物館と彫刻の庭（ワシントン D.C、アメリカ/*2006）
- 2004 「大ガラスが与えられたとせよ」 カルティエ現代美術財団（パリ、フランス）
- 2003 「杉本博司」 サーペンタイン・ギャラリーズ（ロンドン、イギリス）
「杉本博司：歴史の歴史」 メゾンエルメス フォーラム（東京）
「ARCHITECTURE」 ギャラリー小柳（東京）
「杉本博司：建築」 シカゴ現代美術館（イリノイ州、アメリカ）
- 2001 「杉本博司：時の建築」 ブレゲンツ美術館（オーストリア）
「Portraits」 ギャラリー小柳（東京）
- 2000 「杉本博司」 ルフィーノ・タマヨ美術館（メキシコシティ、メキシコ）
「杉本博司：建築シリーズ」 サンフランシスコ近代美術館（カリフォルニア州、アメリカ）
「杉本博司：ポートレート」 ドイツ・グッゲンハイム美術館（ベルリン、ドイツ）
／ビルバオ・グッゲンハイム美術館（ビルバオ、スペイン）
- 1999 「陰翳礼讃」 ギャラリー小柳（東京）

- 1998 「モダニズム」 ギャラリー小柳 (東京)
- 1997 「Twice as Infinity」 ギャラリー小柳 (東京)
- 1996 「杉本博司：写真」 ストックホルム近代美術館 (スウェーデン)
「Motion Picture」 ギャラリー小柳 (東京)
- 1995 「Still Life」 ギャラリー小柳 (東京)
「杉本博司」 メトロポリタン美術館 (ニューヨーク、アメリカ) / ヒューストン・コンテンポラリー・アート・美術館 (ヒューストン、アメリカ/*1996) / ハラ ミュージアム アーク (群馬/*1996) / アクロン美術館 (オハイオ州、アメリカ/*1997)
「杉本博司：Time Exposed」 クンストハレ・バーゼル (スイス)
- 1994 「杉本博司」 ロサンゼルス現代美術館 (カリフォルニア州、アメリカ)
- 1992 「杉本博司：Time Exposed」 CAPC ボルドー現代美術館 (フランス)
- 1991 「杉本博司：Time Exposed」 佐賀町エキジビット・スペース / 佐賀町 BIS、IBM 箱崎ビル前庭 (東京)
- 1989 「近作展 6—杉本博司」 国立国際美術館 (大阪)
- 1988 「杉本博司」 佐賀町エキジビット・スペース / ツァイト・フォト・サロン (東京)
「杉本博司：ジオラマ、劇場、海景」 ソナベンド・ギャラリー (ニューヨーク、アメリカ)
- 1977 「杉本博司」 南画廊 (東京)

主なグループ展

- 2020 「STARS 展：現代美術のスターたち—日本から世界へ」 森美術館 (東京)
- 2017 「不在を作っているもの」 ハーシュホーン美術館・彫刻庭園 (ワシントン D.C.、アメリカ)
- 2015 「シンプルなかたち展：美はどこからくるのか」 森美術館 (東京)
- 2014 「シンプルなかたち」 ポンピドゥー・センター・メッス (フランス)
- 2012 「アジアの亡霊」 サンフランシスコ・アジア美術館 (カリフォルニア州、アメリカ)
- 2011 横浜トリエンナーレ 2011 (神奈川)
- 2010 第 17 回シドニービエンナーレ (オーストラリア)
「セクシュアリティと超越」 ピンチェック・アートセンター (キエフ、ウクライナ)
- 2009 「マッピング・ザ・スタジオ」 プンタ・デラ・ドガーナ (ベネチア、イタリア)
「第三の心：アメリカ人アーティストが見つめたアジア、1860-1989」 ソロモン・R・グッゲンハイム美術館 (ニューヨーク、アメリカ)
- 2008 「リアリティチェック：現代写真における真実と幻想」 メトロポリタン美術館 (ニューヨーク、アメリカ)
「写真についての写真：メディアムに写り込むもの 1960 年より」 メトロポリタン美術館 (ニューヨーク、アメリカ)
- 2004 「単数形 (時々反復) : 1951 年から現在までのアート」 グッゲンハイム美術館 (ニューヨーク、アメリカ)
- 2003 「ハピネス：アートにみる幸福への鍵」 森美術館 (東京)

- 「日本写真の歴史」ヒューストン美術館（テキサス州、アメリカ）／クリーヴランド美術館（オハイオ州、アメリカ）
- 2002 「ムーヴィング・ピクチャーズ」ソロモン・R・グッゲンハイム美術館（ニューヨーク、アメリカ）
- 2001 横浜トリエンナーレ 2001（神奈川）
- 2000 「ゲンダイ：日本現代美術—身体と空間の間」ウジャドゥスキー城現代美術センター（ワルシャワ、ポーランド）
- 「拡張する地平線 ホイットニー美術館収蔵品に見る風景写真」ホイットニー美術館フィリップモリス分館（ニューヨーク、アメリカ）
- 1999 「美に関して：20世紀末の視点」ハーシュホーン美術館・彫刻庭園（ワシントンD.C.、アメリカ）
- 第3回アジア・パシフィック・トリエンナーレ（ブリスベン、オーストラリア）
- 「ミュージズとしての美術館」ニューヨーク近代美術館（ニューヨーク、アメリカ）
- 1998 「今世紀の終わりに：建築の100年」東京都現代美術館（東京）／ロサンゼルス現代美術館（カリフォルニア州、アメリカ）
- 1997 「In Visible Light：芸術、科学および日常における写真と分類」オックスフォード近代美術館（イギリス）
- 1996 第10回シドニービエンナーレ（オーストラリア）
- 「プロスペクト 96：現代美術における写真」フランクフルト・クンストフェライン、シルン・クンストフェライン（ドイツ）
- 「夜に」カルティエ現代美術財団（パリ、フランス）
- 1995 「アルバム：ボイマンズ=ファン・ベーニンゲン美術館写真コレクション」ボイマンズ=ファン・ベーニンゲン美術館（ロッテルダム、オランダ）
- 「日本の現代美術 1985—1995」東京都現代美術館（東京）
- 1994 「空間・時間・記憶：Photography and Beyond in Japan」原美術館（東京）
- 「戦後日本の前衛美術展：空へ叫び」横浜美術館（神奈川）／グッゲンハイム美術館 ソーホー（ニューヨーク、アメリカ/*1995）／サンフランシスコ近代美術館（サンフランシスコ、アメリカ/*1995）
- 1993 「21世紀：パラケルススと未来に向って」クンストハレ・バーゼル（スイス）
- 1992 「隠されたりフレクション」イスラエル博物館（エルサレム、イスラエル）
- 1991 「カーネギー・インターナショナル 1991」カーネギー美術館（ペンシルバニア州、アメリカ）
- 「キャビネット・オブ・サイنز：ポストモダン日本の現代美術」テート・ギャラリー・リバプール（イギリス）
- 1990 「80年代の日本美術」フランクフルト・クンストフェライン（ドイツ）
- 「写真の過去と現在」東京国立近代美術館（東京）
- 1987 アメリカにおける日本現代美術 (1)：アリタ、ナカガワ、スギモト」ジャパン・ソサエティー・ギャラリー（ニューヨーク、アメリカ）
- 1978 「新蔵作品展」ニューヨーク近代美術館（アメリカ）